

故 堀 啓造先生を憶う

経済学部長
藤井宏史

堀啓造先生が昨年(2011年)の5月3日明け方に入院中の高松病院で倒れられてからひと月余り、教職員一同、回復されることを祈っておりましたが、ご家族の懸命の看護のかいもなく、6月12日帰らぬ人となってしまいました。

先生は以前より糖尿病を患っておられ、近年は慢性腎不全を併発して週3回の人工透析を余儀なくされておられました。そのせいか、筋肉が弱り、昨年1月からは転倒してお怪我をされることも増え、勤務の継続が危ぶまれていた矢先の出来事でした。

先生は、昭和25年12月23日に兵庫県明石市でお生まれになり、神戸大学教育学部附属明石小学校、同附属中学校、兵庫県立明石高等学校に進学されました。そして、東京教育大学教育学部心理学科、同大学大学院教育学研究科修士課程教育心理学専攻に進学され、昭和56年に筑波大学大学院博士課程心理学研究科を単位修得退学された後、長岡短期大学で2年間講師として教鞭をとられ、昭和58年4月に香川大学商業短期大学部に助教授として採用されました。そして平成3年6月には教授に昇任された後、平成7年10月からは配置換えにより香川大学経済学部に移られ、通算で27年間にわたり、本学の教育・研究の発展のために多大なるご貢献をいただきました。

この間、ご専門の心理学を活かして消費者行動、消費者調査法および調査データ分析法の研究に従事されてきましたが、多変量解析を使った消費者行動の調査データ分析のご研究は消費者行動学会等において高く評価されています。またこの研究を通じて蓄積された統計関連の情報のホームページは、データ分析に携わる研究者や実務家が一度は訪問すべきと言われるほど有名で、専門家の間では高い評価を受けています。

実際、「いつも堀先生のホームページにはお世話になっています」と、私自身、学会で他大学の先生から声をかけられたのは一度や二度ではありません。先生が亡くなられた後も先生のホームページに関する大学への問い合わせが途絶えることはありませんでした。そこで、香川大学経済学部としてご遺族のご了解をいただいて、先生のホームページを香川大学経済研究所のホームページに移管し、全国の研究者の利用の便に供することにより、この分野での先生のご功績を長く称えることといたしました。

先生には、商業短期大学部の夜間教育12年も含め、多くの学生の教育にご尽力いただきました。先生の授業は厳しいことで有名で、受講態度が不真面目な学生にはとりわけ厳格な態度で臨まれたと聞いています。法人化後、学生による授業評価が始まり、評価を気にしてやさしい授業をする教員が増える中で、先生はこうした厳しい教育姿勢を貫かれました。そのため受講生は、必ずしも多くはありませんでしたが、教育熱心な同僚やまじめな学生には大変評価の高い授業でした。

体調が悪化して歩行が困難となられてからも、ゼミ旅行の引率や教壇に立って講義を行うことに強いこだわりをもたれ、学生に対する教育に懸命に努力してこられました。昨年、前期の授業が始まる前の3月末にお会いした折にも、「人工透析と腎臓食で体力が落ちてきているので、時々、椅子に座りながら授業をすることを許してほしい。なんとか今年一年乗り越えられたら教員を続ける自信ができる」と話されて、授業を継続することに強い意欲を示されました。しかし残念ながら、その願いはかないませんでした。

先生が示された教育に対するこうした強い信念と情熱、固い意志は私たち大学人にとって模範とすべきもので、教育研究環境が一段と厳しくなることが予想されるこの時期に、先生を失ったことは残念でなりません。教職員一同、先生のこの姿勢を継承し、今後の香川大学経済学部の発展に活かすことをお約束して、お別れの言葉といたします。

時折お会いすると最近の大学教育や学生の問題を熱く語られていた先生、多くの専門書で埋もれそうな研究室で毎日明け方近くまで研究をされていた先

生，もうお会いすることが出来ないかと思うと大変さびしい限りです。

堀啓造先生，長い間，本当にありがとうございました。安らかにお眠りください。